



ふ れ あ い

市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

移住・定住促進への取り組み

先月のこのコーナーでも触れさせていただいた南あわじ市総合計画では、住む人の魅力が来訪者や移住者を引きつける「人が人を呼ぶ地域づくり」をめざしています。今月は、その取り組みの中でも重点事業の一つである、移住・定住戦略についてお話させていただきます。

本市では、高齢化・人口減少の中、健康寿命を延ばし、多くの方に社会を支える側に居続けていただく生涯活躍社会の推進や、安心して子どもを産み育てることができる「子育ての喜びが見えるまち」に向けた施策を展開しています。加えて、若者のUターンや都市部などから移住して活躍をめざすIターンにより社会の担い手を増やすことも重要な課題です。これまで単独の部署で進めてきた移住・定住施策を、全庁の施策を動員しながら総合的に推進する体制を作りつつあります。

第一に、移住・定住につながる関係人口の拡大です。現在も続くコロナ禍によって、テレワークの推進・普及が一気に進み、都市部で働く方々を中心に、働き方・住み方の意識が大幅に変化しています。この大きなチャンスを生かすため、都市部の企業が本市で事務所などを共有して仕事をを行うワーキングスペースの設置などにもいち早く取り組んでい

ます。また、多様な返礼品が人気を集めているふるさと納税も、寄付者の皆さまが本市を知り、訪れ、市民の皆さまと触れ合うきっかけとなるように活用します。さらに、「若者ふるさと応援便」（現在も募集中です）を島外で活動する地元出身の若者とのつながり強化に活用したり、市役所職員の人脈を動員したりするなど、最大限に可能性を追求していきます。

第二に、人材確保が特に必要な分野での取り組みです。本市では、とりわけ保育士、介護・看護人材、農畜水産分野の新規就業者・後継人材などの確保のため、家賃補助や就業支援を提供しています。また、大学等の奨学金の返済を助成し、若者の定住を促進しています。

第三に、移住・定住の鍵となる生活拠点についてです。本市には多数の空き家がありますが、貸家・売家として出てくる件数は限られており、移住相談の増加に対応できない実態があります。利活用可能な空き家を掘り起こすため、空き家バンクへの登録増加に努めています。また、多世代住宅の助成など、定住促進のための施策も推進しています。

個性と魅力あふれる「人」の存在は、本市の大きな強みです。魅力ある住民、教育、住まい、そして多様な働き方と安全・安心な暮らし。人が人を呼ぶにぎやかなまちづくりの先には、可能性あふれるふるさどが見えます。豊かな食や自然、地域文化などの素晴らしさが後世へと引き継がれるよう、皆さまとともに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

感染症対策にご協力をお願いします

- ・3密を避け、人と接する場合はマスクを着用する
- ・手洗いや手指の消毒を励行する
- ・室内や移動の車内などでは換気を十分に行う

地域創成生涯学習講座を開講

吉備国際大学で、地域の皆さまを対象にした「地域創成生涯学習講座」を開催します。テーマは「地域創成の方法と実践」です。10月は2回の開講を予定していますので、お気軽にご参加ください。事前申込制で参加費は無料です。

申込方法 電話またはFAX（FAXでのお申込みの際は申込用紙をご利用ください）

申込期限 各回開催前日の17:00まで

申込み・問合せ先

同大学南あわじ志知キャンパス 地域連携センター

☎ 0799-42-4708（平日の9:00～17:00）

☎ 0799-42-4701（土日祝も受付可）

✉ kiu-aw@kiui.ac.jp



《10月開講講座》

第1回「人口減少社会における地域創成を考える」

日時：10月13日（木）10:30～11:30

講師：農学部地域創成農学科 教授 末吉 秀二

定員：40人

第2回「GISを使って地域の情報を地図化する」

日時：10月28日（金）10:30～11:30

講師：農学部地域創成農学科 教授 森野 真理

定員：20人



ナジャ・グランディーバさんらによる講演会

“誰か”のことじゃない 人権啓発イベント開催

人権問題を身近に感じてもらおうと「じんけんサマーフェスティバル2022」が8月14日、中央公民館で開催されました。会場では、手話体験ができるブースなどが開設。また、タレントのナジャ・グランディーバさんが自らの体験をもとに人権について語る講演会が行われました。



お祝い状を受け取った大住さん(右)

100歳おめでとう 長寿を祝って市長が訪問

今年度100歳を迎える高齢者をお祝いするため、守本市長が9月1日、高齢者宅を訪問しました。守本市長からお祝い状を受け取った大住つる子さん（松帆）は、毎日読書が続けており、小説や週刊誌など幅広い種類の本を読むといます。長寿の秘訣は「自然に生かされています」と笑顔で話していました。



特別展で紹介されている古代中国や朝鮮の青銅楽器

銅鐸の起源を探る 玉青館で特別展を開催中

滝川記念美術館玉青館では、松帆銅鐸秋季特別展「銅鐸への序曲―鈴から鐸へ―」を開催しています。古代中国で、人や家畜に吊り下げて音を鳴らしていた鈴。これが弥生時代に朝鮮半島を経て日本へ伝わり、独自の発展を遂げて巨大化し、祭りの道具である銅鐸になりました。淡路島

では、早い段階から祭事に銅鐸を取り入れたことが分かっています。同特別展では、日本で銅鐸がつけられ出す以前の古代中国や朝鮮で使われていた鈴や鏡・鐘といった青銅楽器を紹介し、銅鐸の起源を探ります。開催は12月4日（日）まで。松帆銅鐸全7点も公開中です。



地域おこし協力隊の委嘱状を受け取った三上さん

阿万地区の活性化へ 地域おこし協力隊に三上さん

南あわじ市の地域おこし協力隊に沖縄県宮古島出身の三上都穂子さんが新たに就任しました。健康促進事業やユニバーサルスポーツなどを通じて、阿万地区の活性化に取り組みます。地域おこし協力隊は、意欲ある人材が都市部などから地方へ移住して、地域の活性化などに協力する制度。三上さんは、大学進学

で関東へ移り、卒業後は高校教員などの仕事をしていました。今春から夫が淡路島に単身赴任しており、移住を検討していたところ、地域おこし協力隊の募集を知って応募したといいます。9月1日に市役所で委嘱状を受け取った三上さん。「30〜40代のミドル層が帰ってきたいと思えるまちにしたい。地域の人と一緒に取り組み、まちを楽しく活性化できれば」と抱負を語りました。